

○野沢南高等学校（定時制課程） 学校目標

学校教育目標
1 民主社会における正しい判断力と道義心を養う。 2 教養を高め心身を鍛えて個性を伸ばす。 3 適切な職業観を培う。
学校重点目標（中・長期目標）
1 生活習慣を確立し、自主的・自律的に行動できる生徒を育む。 2 学習・クラブ・生徒会活動を通じ、自己の発見や開発のできる生徒を育む。 3 個々に適したキャリア教育を推進し、意欲的に学習に取り組む生徒を育む。 4 命と人権を尊び、豊かな人間性を育む。 5 地域から信頼される開かれた学校づくりに努める。
今年度の重点目標
1 基礎・基本の定着と学習意欲の向上を目指して、授業の研究・改善とICTの活用推進を図る。 2 ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、学習環境の整備を図る。 3 個に応じたキャリア教育により、生徒の進路実現と社会的自立に向けた支援を充実させる。 4 保護者・中学校・地域との連携と情報発信を進める。 5 生徒・職員の人権意識を高め、いじめ・体罰のない安全で安心な学校づくりを進める。

○重点目標・評価の観点・自己評価（A 達成できた B 概ね達成できた C 達成できなかった）

外部（学校評議員）評価（A とてもそう思う B そう思う C 改善が望まれる）

領域	対象	重点目標	評価項目	評価の観点	自己評価	成果と課題・改善策（主な記述）	外部評価（%）
学校運営	教務	効率的な学校運営、落ち着いた環境づくり	諸行事の運営・職員会議の運営	効率的・効果的な運営と工夫がなされたか。周知徹底、効率的な運営ができたか。	A	事前の周知徹底がもう少し早く丁寧にできればよかった。	A 83% B 17% C 0%
		諸行事の企画・運営・PR	諸行事・入試選抜業務の企画・運営	適切な企画・運営をすることができたか。定時制HP等により、学校の最新情報を提供できたか。	A	踏襲できるところでもチェックを細目にしたい。	A 83% B 17% C 0%
		地域により信頼される定時制教育の研究	定時制教育のあり方についての研究	定時制教育の課題（授業改善、生徒支援、キャリア教育、人権教育等）について、職員間で共有することができたか。	A	各系の活動とそのサポートで例年通りに共有することができた。	A 100% B 0% C 0%
教育活動	学習指導	基礎基本の定着と学習意欲の向上	学習計画の明示と基礎・基本の定着に向けた工夫	シラバスを作成し、学習計画・学習内容等を明示したか。生徒の理解度や進度に応じて柔軟に対応し、基礎基本の定着を図る工夫ができたか。	A	個別学習アプリ「すらら」を活用し、学び直しができた。	A 100% B 0% C 0%
			個別指導の充実	生徒の学力や資格取得希望に応じた個別指導の工夫ができたか。	A	英語検定等の検定に挑戦する者が出ていた。	A 100% B 0% C 0%

		学習意欲の向上	学ぶ楽しさや意義を見いだせるような、分かりやすい教材づくりができたか。生徒の主体的学びにつながる授業改善に取り組むことができたか。	A	1人1台タブレットの活用頻度が増え、探究方法の蓄積を図った。	A100% B 0% C 0%
生活指導	学習環境の整備	授業を大切にする指導の徹底	授業のチャイムスタート、遅刻・早退・欠課の減少、私語や携帯等の継続的指導がなされたか。	B	遅刻・早退・欠課を少なくすることが課題である。授業規律は高い。	A17% B 83% C 0%
		校内の整理・整頓	生徒が校舎内外の清掃、教室・食堂・体育館等の後片づけを積極的にするよう指導ができたか。	A	生徒は進んで清掃をしている。私物はロッカーを使い、しっかり管理している。	A100% B 0% C 0%
		出欠席の掌握	毎時間の出欠席を掲示板へ記入し、確認することができたか。	A	出欠管理は厳密にできている。欠席生徒の共有もできている。	A100% B 0% C 0%
保健	生徒の自立に向けての支援態勢充実	相談体制の充実	生徒の悩みや要望を受けとめられるように、日頃から生徒との関係づくりに留意し、生徒理解を深めることができたか。	A	生徒に寄り添い、傾聴な姿勢で個別相談に応じることができた。	A100% B 0% C 0%
		不登校生徒への支援	欠席の多い生徒に対し、電話連絡や家庭訪問等で連絡を密にし、必要に応じて外部との連携がとれたか。	B	不登校傾向の生徒対応は担任が主に連絡をとっているため、必要に応じて支援会議等を行った。	A 33% B 67% C 0%
		学校行事への参加	学校行事に対して、「自分たちでつくり」「自分の行動に責任を持つ」意識を喚起し、学校行事への参加がはかれたか。	A	生徒の様子を見ながら、支援を行うことができた。	A100% B 0% C 0%
生徒会		生徒会活動の活性化	生徒の創意工夫を最大限尊重し、生徒が主体となって取り組む場面を増やすことで、自主的・主体的に行動できる生徒会を育成できたか。	B	文化祭での「て〜じ喫茶」の内容を充実させた。全日制生徒会との連携を強化する。	A 50% B 50% C 0%
		クラブ活動の活性化	生徒の意向を取り入れた運営等、クラブ活動に積極的に参加できるような支援ができたか。また、文化部の活性化に向け努力がされたか。	B	バドミントン部が活発に活動し活躍した。美術部は文化祭で作品を発表した。	A67% B33% C 0%
進路指導・キャリア教育	個々に応じた進路指導	進路目標の明確化	個々の生徒の状況に応じた進路指導の取り組みができたか。	A	個々の希望や状況に応じて取り組めた。	A100% B 0% C 0%
		進路相談の充実	ハローワークとの連携、全職員の協力による進路相談体制の充実が図られたか。	B	全職員で協力して行ったが今後も、係、担任だけでなく、全職員で情報共有をしていきたい。	A 17% B 83% C 0%
		情報提供等による就業支援	ハローワークとの連携を密にし、職場情報を提示する等、就業希望のある生徒を支援する対策をとることができたか。	B	今年度は縁故就職者のみで、ハローワークを活用しなかったが、情報共有はできた。	A 17% B 83% C 0%
		社会性の育成	校内生活での礼儀・作法等や、社会人としての常識・マナー等の指導ができたか。	B	SST事業で行ったが、日頃からの指導を全職員心がけていきたい。	A 33% B 67% C 0%

		キャリア教育の視点に立った教育活動	キャリア教育の充実	生徒の社会的・職業的自立に向け、キャリア教育の視点に立って教育活動に取り組むことができたか。	A	進路ガイダンスを年2回行い、進路に対しての意識付けができた。「社会見学旅行」も実施できた。	A100% B 0% C 0%
	人権教育	人権意識の向上と安全安心な学校づくり	人権意識啓発のための活動推進	人権教育講演会をはじめとする啓発活動によって人権意識を向上させることができたか。日常においても機会をとらえて啓発することができたか。	A	労働三権について、3・4年対象の講演会と全学年対象の講演会が実施できた。	A100% B 0% C 0%
			安心感を抱ける居場所づくり	いじめ予防のために日頃から注意深く生徒を観察することができたか。万一いじめが発生した場合でも、関係各所と連携して早期解決が図れるよう努力したか。	A	今年度いじめ事案はなかった。保健室、スクールカウンセラーと充分連携を取れた。	A 83% B 17% C 0%
外部連携	全般	地域に信頼される開かれた定時制教育の研究	保護者との連携	生徒の出欠席状況、その他生徒に関する学校生活の情報を保護者に連絡する体制がとられていたか。また、日頃から緊急時への対応ができる連絡体制が整備されているか。	A	生徒がなぜ欠席したのかは、ほぼ毎日把握している。家庭との意思疎通も十分できている	A100% B 0% C 0%
				「学校HP」「学年通信」等で学校の様子を保護者や地域に発信し、行事への参加を呼びかけることができたか。	B	学校HPは行事ごとに更新されている。PTA総会への参加は1年生が中心なので、上級学年にも働きを強めた	A17% B 83% C 0%
			中学校やフリースクールとの連携	学校説明会や見学会、授業公開を実施し、生徒について情報交換や密接な連携が図られたか。	A	多くの参加があり、本校の様子や、進学についての疑問点などの情報交換を行った。	A100% B 0% C 0%
				近隣中学校、フリースクール等、不登校支援団体との交流や連携を緊密にすることができたか。	B	中学校からの情報を、職員間で共有し、個々の指導に役立てることができた。	A 50% B 50% C 0%
			就労先との連携	定職者やアルバイトの企業と必要に応じて連絡を取ったか。	B	定職者はいないが、アルバイトをおこなっている生徒に対しての状況確認をする中で、必要に応じて連絡を取っている。	A 17% B 83% C 0%